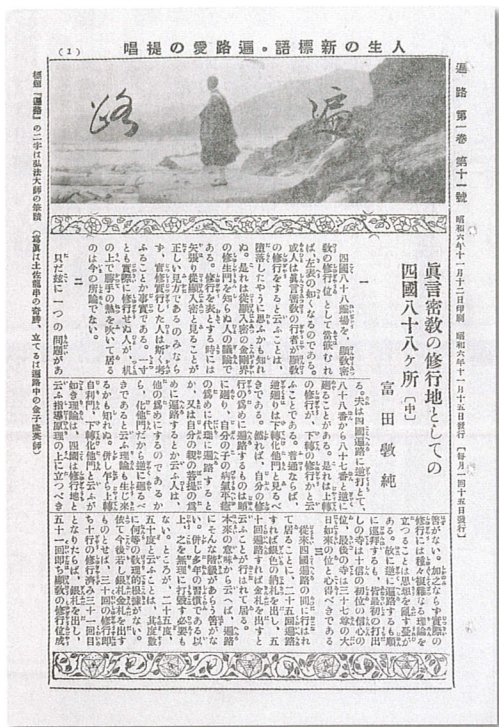


# 遍路〔復刻版〕全3巻・別冊1

- 発行—— 遍路同行会
  - 体裁—— A5判・上製・総1、238頁
  - 別冊—— 解説・総目次・索引  
これのみ分売可 本体価格1,000円＋税  
ISBN978-4-8350-7875-5
  - 解説—— 下西 忠 (高野山大学教授)
  - 揃定価—— 本体54,000円＋税  
ISBN978-4-8350-7870-0
  - 推薦—— 真鍋俊照・森 正人
  - 原本提供—— 高野山大学図書館
- \*本復刻版には、宮尾しげを著作箇所が収録されておりません。  
予めご了承ください。



## ●関連図書のご案内

### 戦前期仏教社会事業資料集成 全13巻

編・解題 菊池正治・高石史人・中西直樹  
 体裁 II A5判・上製・総7、556頁  
 推薦 II 長谷川匡俊・室田保夫  
 揃定価 II 本体334,000円＋税

明治末から大正・昭和戦前期、仏教が社会事業に果たした役割は大きく、各教団による事業、僧侶ら仏教者が設立した施設、寺院に附設された施設は膨大な数にのぼる。本資料集成では、各教団関係機関の発行した社会事業の要覧・便覧・報告書等を収集整理し、収録した。仏教史・社会福祉史研究の基礎資料として提供する。

### 国立公園協会発行〔昭和4年～昭和19年刊〕 国立公園 全12巻・別冊1

体裁 II B5判・上製・総5、568頁  
 別冊 II 解題(白幡洋三郎)・総目次・索引  
 推薦 II 小泉武栄・越澤明・曾山毅・西田正憲  
 揃定価 II 本体312,000円

本書は昭和二年に設立された国立公園協会の機関誌である。国立公園法(昭和六年)制度の解説、同九年から指定が始まった国立公園の特質、保護や利用等の記事を通して国立公園の普及啓発に努めた。戦前戦中期、植民地をも含む国立公園の成立・運営とその意義、国立公園行政の全体像をとらえる基本資料である。

表示価格は、全て税別

## 不二出版

〒113-0033 東京都文京区向丘1-1-1  
 TEL 03-3821-4433  
 FAX 03-3821-4434  
 振替 0016012194084

## 遍路同行会機関誌

1931年～1942年

# 遍路

## 復刻版 全3巻・別冊1

解説—— 下西 忠

推薦—— 真鍋俊照・森 正人

原本提供—— 高野山大学図書館

揃定価—— 本体54,000円＋税

2016年3月刊行

遍路同行会機関誌『遍路』は、  
 四国遍路はもちろん、  
 関東の遍路についても  
 豊富に掲載されている。  
 近代の遍路を知るために  
 不可欠な貴重資料である。



七 月 號

不二出版

### 復刻版『遍路』を推薦します

真鍋俊照

雑誌『遍路』は、昭和六年から一七年までに出版された幻の出版物である。私も遍路寺院にしながら、この名著はなかなか手にとることができなかった。ただ祖父が数冊、大事にしなかつて持っていたので、それを取り出して小学生の頃みた記憶がある。当時、東京で四国遍路を熱心に主宰していたのは、中野にある宝仙寺の住職で密教学者の富田敦純という高僧である。あの名著『秘密辞林』を出版したのも師である。私は縁あって、その宝仙寺が経営する「こども教育宝仙大学」の前身、宝仙学園短期大学の学長をつとめさせていただいた経緯がある。そこで思い出すことは、その寺の境内に四国八十八ヶ所遍路の記念碑が残っていたことである。私は大学へ通うたび、その碑を拜んだ。富田敦純僧正は、その碑に原字で、遍路の参加者を集めて苦心の末遠い四国の地へ巡礼を行った旨を記している。

今回の再刊は、以上の様に富田僧正個人の布教と巡礼の成果の賜物を称える意味でも誠に意義深いものがある。四国遍路は一昨年、開創一二〇〇年の記念の年を迎え、数々の記念行事を無事終えている。そして四国遍路は国の「日本遺産」にも認定され、始動している。さらに四国（徳島、高知、愛媛、香川）の知事が合意して、来年以降に世界文化遺産登録という大目標を目指している。そのような時期に、このような復刻出版が実現する運びとなったことを心から祝賀申し上げる次第である。どうか、本出版が広く読まれることを期待し念願している。

（四国大学教授、文学博士、四国霊場会「世界文化遺産委員会」委員長、四番札所大日寺名誉住職）

### 意義深い『遍路』の復刻

森 正人

当初は第二次世界大戦後の四国遍路を研究していた私が、近代における四国遍路の近代化、観光化、国家政策との関わりにまで対象とする時代を押し広げたとき、遍路同行会発行の月刊誌『遍路』はとても重要な資料だった。私の研究において『遍路』が重要であった理由は次の三点である。第一に、一九八〇年頃まで四国遍路に関する出版物はそれほど多くはないため、当時の四国遍路の様子を伝えるという資料的価値を持つことが挙げられる。四国遍路は弘法大師信仰と結びつくものの、空海を宗祖とする真言宗は長く関心を示さなかつたため、近代においても四国遍路の状況を捉えることは難しい。第二に、四国遍路の札所寺院の統一性や連帯性は一九八〇年代まで強くなく、東京に本部を置く遍路同行会の『遍路』が強い使命感を持ち、組織化しようとしたことが挙げられる。第三に、宗教と政治との関係をこの雑誌は見せることが挙げられる。遍路同行会は一九三〇年代後半から国家政策に四国遍路の存在価値を位置づけようとする。こうした『遍路』が持つ資料的価値にもかかわらず、この雑誌を所蔵する機関は片手に満たない。私は大学院生時代、この雑誌を閲覧するために何日も高野山大学図書館に通った。このたびの復刻出版によって『遍路』へのアクセスはグッと容易になる。それは四国遍路研究だけでなく、宗教学や宗教史、さらにはナショナルリズム研究にとっても意義あることだと思ふ。

（三重大学准教授）

### 遍路愛（上）

富田敦純

一 遍路愛とは、未だ聞いたことのない名詞だと仰せらるゝ方もあらうと思ふ、仰の如く正に儘に新名詞である。併し乍ら遍路愛其物は四国遍路始つて以来、嚴然として存在する事實である。吾々は唯だ事實其物に遍路愛と云ふ名を附けたまで、ある。然らば如何なる事實が遍路間に存在するか、私の見る所では、少くとも他處に見ることの出来ぬ事實が三つあると思ふ。曰く相互愛、曰く平等愛、曰く犠牲愛である。此の外に同行二人の信仰があるが、夫は愛其物でないから、別に取扱ふ積りである。

二 四国遍路の間では、お互に出會ふ時には必ず片手を挙げ頭を少し垂れて敬禮することになつて居る、一人でも此作法に背くものはない。是れは専門語で云へば半合掌である。云ふまでもなく、四国遍路は片手に金剛杖、若くは錫杖を持つて居る、そこで、兩掌を合はせる合掌は出来ぬ、止むを得ず片手だけ挙げて合掌の代りとするのである。故に之を半合掌と稱するのである。元來、合掌は印度の敬禮法で、我國で手を垂れ、頭を下ぐると同じことである。此の敬禮法は四国遍路の間にはお互に相手方が癩病患者であらうが、乞食同様ののみそ

▲第1巻第3号

### 北米八十八ヶ所開創

松橋僧正一行の歸朝を迎へその勞を謝す感

村上 長人

高野山管長代理松橋僧正一行は、北米ロスアンゼルスに新築された高野山別院の落成入佛式を了りて、各地を巡錫し、多大の法益を齎した。北米各地には大師講あり、羅府附近にも三十餘を數へる程にて、大師講を基礎として

午後六時、東京驛發岡山行の列車に乗り込む。送つて来た人等は、御詠歌にて門出を祝されたので一を踏み出したのである。

四月一日 晴  
我等一同は本會々長の御寺なる、中野區寶仙寺に集つて、大師堂で道中無事のお護摩を修行して貰ふた、護摩の烟は頗る幸先よきものがあつた。

四月二日 薄曇  
我等一同、即ち先達格の理事宇田川銀之助老人を始めとし、幹事川上眞弘、幹事山本太平、會員山本長右衛門、中村ゆき、大橋時子、熊木輝子、久保木智月、植村金太郎、細田わか、飯田仙太郎、本橋安太郎の十二名、大橋さんは大橋乙羽さんの未亡人、乙羽さんは日露戦争後の御府内巡拜の盛んな頃、其の案内記やうの書冊を著されたので吾々遍路間には知られた人である。

午後四時、一同は秋葉原驛に集合した、而して此處で金剛杖、納經帳、白衣、日用品を除く以外の荷物は和歌山驛着としてチッキで出し、東京驛に行く、同驛には數十名の見送り人あつて我等を待つて居る。



善通寺記念撮影

午後六時、東京驛發岡山行の列車に乗り込む。送つて来た人等は、御詠歌にて門出を祝されたので一を踏み出したのである。

四月三日 晴  
晴天京都市は大霜は午前五時二十分京都驛に着、直ちに自動車にて東寺、御室御所、神光院に急速力で參詣を終り、京都驛に歸る、午前九時三十分京都驛發で大阪に向ふ、大阪で四天王寺に參詣す、午後一時五十分天王寺發天下茶屋橋本乗替にて高野山に午後五時着、直ちに大乗院に至り泊る。

四月四日 高野山上は朝雨

▲第7巻第6号

▲第11巻第1号

遍路同行會規則

- 第一條 本會は遍路同行會と稱す
- 第二條 本會の事務所は東京府下中野町寶仙寺に置く
- 第三條 本會は弘法大師の遍路を鼓舞するを目的とし
- 第四條 本會は前條の目的を達せん爲め左の事業を行ふ
  - 一 文書宣傳
  - 一 講演・講習會開催
  - 一 四國遍路の奨励
  - 一 御府内八十八箇所所の巡拜
  - 一 遍路精舎の經營
  - 一 接待の施與
- 第五條 本會々員を左の四種に分つ
  - 一 名譽會員 名望ある人を推薦す
  - 一 維持會員 年額金拾貳圓以上を贈出するもの
  - 一 正會員 年額六拾錢以上を贈出するもの
  - 一 贊助員 臨時に淨財を寄附せしもの
- 第六條 本會には左の役員を置く

會長	一名
理事	十名
幹事	若干名
書記	若干名
會長理事は總會に於て選舉し幹事及び書記は會長之を委嘱す役員は任期は毎年一月とす	
第七條 本會總會は毎年一月とす	
第八條 本會會計は會員の贈出及び臨時収入を以て之に充つ會計年度は歴年度に依る	
第九條 本會規則の變更は總會の決議に依る	

▲第1巻第1号

遍路の縁

高群逸枝

私は、娘時代に、お遍路をしたことがある。私の國は熊本であるが、四國へ行くには、豊後海峽を渡らねばならないので、その往復の船賃を算段するため、九州日々新聞の編輯次長を訪ね、新聞に通信を送るからといつて、十圓貰つた。出發したのが六月四日で、歸つたのが十一月下旬であつたから、約半年の旅であつた。何で四國へ行つたかといふことを、いま考へて見るが、これといつて、尤もらしい動機はなかつたといふのが、眞實であらう。

私の父母は、私の前に生んだ子供を次々になくして悲しみのあげく、筑後の清水觀音に願をかけ、女の子の私をお縁日の十八日に生んだ、それを徳としていつか、お西國をするやうに、云ひきかせ

▲第9巻第1号

遍路として

荻原井泉水

鶯、その木に鳴く遍路として通りけふは夕日に鳩の鳴く寺に宿をとりほ、雉子が鳴く茶屋に長居しすぎて麥の穂かけろう遍路も半ばを終へ雀がゐればお札所で小さな庵ぞ雲から出た月の影で笠着てるる屋根に麥が生えて佛はゐます後や先や今日も落合うて清水に月はずりに枕置く同行として笠傾けて松の並木を打つてくる雨

▲第2巻第8号

四國遍路便り

婦人會員一行

第十二信 土佐清水港にて  
四月十三日 道中大變心配をした吉澤さんと廣瀨さんお二人の足も、毎晩私(中澤)が金剛杖で御加持をしたので、すっかり治りました。吉澤さんが喜んでこれを話されたもので、宿では毎晩多くのお遍路さん御加持を頼まれ閉口しました。それでも人助と思ひ恥かしさを忍んで御加持してあげましたら、翌朝は皆元氣に立つて行かれました。こゝには雨のため都合三晩泊りました。

第十三信 伊豫平城にて  
四月十五日 朝宿毛の宿から一里半の打戻りをした宿毛からバスで平城に來、御詣りを済ませて宿につき明日は舟で宇和島へ参ります。

第十四信 宇和島森田屋にて  
四月十七日 朝四時起床、四時半出立五時過貝塚から宇和島行の船に乗込

み、五時半には宇和島着港、四十一番の奥の院参拜、四十一番の手前に泊りました。きのふ頂いたビスケットと南京豆を船の中で頬張りながらあたりの景色に見とれ、一同元氣で参りました。

四月十八日 けふも雨天で滞在ときめました。

第十五信 八幡濱港にて  
四月十九日 夜十二時出帆別府へ一寸行つて参ります。上陸するや關屋旅館の番頭に出合ひ、案内して貰ふ座敷も日當りよき表座敷として、往來もながめられ遍路の身としては上等で御座いました。滞留數日、一同も元氣快復しましたのでいよいよ四國へ立ち戻る事に致しました。二十四日午後十二時半乗船出航致しました。乗客も少く幸に席も得られ少しは眠られました。二十五日午前六時頃八幡濱に上陸、同所よりバスにて八幡濱へ、更に同所より汽車に乗り大洲驛にて下車致し、十夜ヶ橋に向ひました。十夜ヶ橋御大師橋に詣り、更に新谷より夜まで汽車内子よりバスにて突合とか云ふ處へ又乗替へ久萬町まで行く、其より歩く事に致しました。トラツクが通る度に砂煙で戦地をつかふエンマクの様です。久萬町に入り四十四番のふもとのとみ屋と云ふ宿に入る。

▲第11巻第6号



四國を一大公園とせよ

富田 敦純

瑞西は西洋の公園で、日本は東洋の公園であるとは能く聞く語である、高山山は日本のゼルサレムであると云ふ人もある。我が日本の本土並に領土中で四國ほど風光明媚の處はない、或る場所を挙げ小部分の處を指せば、固より四國に優る景勝地は澤山ある、併し全體として見る時は、四國が一番山水が變化に富んで居る様に思ふ。先年選定せられた日本八景の一たる室戸岬は海岸美で勝り、昨春海上國立公園に指定された瀬戸内海を始め、將來の國立公園の候補地たる小豆群島の如き、四國の周圍には小島が基布して居る。山嶽は割合に高くはないが、併し山嶽重疊丘陵起伏造り上げた箱庭の如き感がある。而して日本全國に類例

のない熱帯植物すらある。之を歴史的に見れば、世界の一大偉人で日本佛教の完成者たる、弘法大師

四國八十八ヶ所靈場

一番より十一番	阿波國	平野
十二番	山嶽	山嶽
十三番より廿番	山嶽	山嶽
廿一	山嶽	山嶽
廿二、廿三番	山嶽	山嶽
廿四、廿五番	土佐國	山嶽
廿六番より卅番	土佐國	山嶽
卅一番より卅三番	伊豫國	山嶽
卅四、卅五番	伊豫國	山嶽
卅六番	伊豫國	山嶽
卅七番	伊豫國	山嶽
卅八番	伊豫國	山嶽
卅九番	伊豫國	山嶽
四十番より四十四番	伊豫國	山嶽

所がこの四國に就いての紹介文學は割合に少ない、耶馬谿は天下の奇勝として知られて居る、併し耶馬谿ほどの勝地は我國に猶幾ヶ所もある。然るに耶馬谿が谿谷美の最優地として知られて居るのは頼山陽の麗筆に依つて天下に紹介されたからである。先年東京日々新聞社が新日本百景の俳句を募集した事がある、所が室戸岬を大師の靈跡として詠じたものは一句もない、たゞ遍路の佛だけが擧げられて居る。是れは宣傳が足りぬためである。あの室戸岬は弘法大師の求聞持法修行の遺蹟たることは

▲第5巻第1号

四國遍路案内

い、服装

- 一、遍路の服装として別にお造りにならず、普通の着物で差支ありません、長い旅ですからお粗末なものでよろしいです。
- 二、羽織は朝夕お寒い時の用意にお持ちなされても宜しいが、毛布等は荷となつてお邪魔です。
- 三、襦袢は着替を一枚お持ちになり、度々洗濯をなさるが宜しい、遍路宿に早宿りしてお洗濯になれば翌朝は着られます。
- 四、外に着替は入りませぬ。お遍路は勉めて荷を少くする事です。

ろ、調度品

- 一、次の品々は是非共必要です。
- イ、菅笠 口、金剛杖
- ハ、納経帳 二、納札(五百枚許)
- ホ、札挟(納札の入物) へ、念珠
- ト、辨當箱 チ、柳行李
- リ、さんや袋(お米の入物)

▲第8巻第1号

第百二回大東京遍路修業會

二月二十六日 (第四日曜)



院 納 加 中 谷

集合所	大龍寺	市電 神明町下車四丁 田端下車五丁
第十三番	東覺寺	
第十六番	觀音寺	
第十九番	多寶寺	
第二十三番	白性院	
第二十五番	長久院	
第二十三番	觀智院	
第二十七番	明王院	

遍路同行會月例行事

多磨 遍路  
二月十九日(第三日曜)日歸り  
午前八時半新宿京王驛集合  
雨天中止、辨當御持参  
賞費 貳圓位  
先達 宇田川銀之助

相馬 遍路  
二月十九日(第三日曜)日歸り  
午前七時半上野驛集合  
雨天中止、辨當御持参  
賞費 壹圓半位  
先達 中澤 政治

四國講演と詠歌の會  
時日 二月十七日 午後二時—五時  
場所 淺草公園 佛教傳道館  
講師 伊東教順 青龍寺芳度 小山良雅 村上長人 諸師  
教師 大野熊五郎 山本正男諸氏

六阿彌陀まあり  
時日 三月二十一日 午前八時  
場所 西新井大師  
雨天順延 辨當御持参  
打止め 龜戸常光寺

▲第9巻第2号